

～北海道での栽培事例および取り組み～
カボチャ「つきみ」を栽培して

株式会社
大地のMEGUMI
代表取締役
福田 英信

1.はじめに



当社が位置する北海道北東部の大空町女満別は、麦、馬鈴薯、てん菜、水稲(もち米)を主体とした畑作農業と、網走湖を活かした内水面漁業が盛んな地域です。当社は平成元年に農家の仲間7人で結成された「女満別有機栽培同友会」から始まり、平成21年に有機JAS農産物および特別栽培農産物を取り扱う会社として設立されました。活動理念として「見える農業」「触れる農業」「語り合える農業」を掲げ、オホーツク特有の気候を活かした有機特別栽培、農薬の使用量を抑えた安全な農作物の栽培を目指しており



▲写真1 「つきみ」の冷凍加工品

ます。主な栽培品はカボチャ、パレイショ、アスパラなどで、契約栽培による青果物の販売、インターネットを利用した通信販売、規格外を有効活用した加工品の開発・販売など幅広く取り組んでおります(写真1)。購入して頂いた消費者の皆さまの「おいしかったよ」という声に励まされ、メンバー全員日々奮闘しております。

2.カボチャへの取り組み

カボチャは生産者9名の管理のもと24haで栽培しており(写真2)、黒皮種と白皮種合わせて計6品種を例年9月下旬から出荷しています。

「つきみ」の栽培は、取引先から試作用として種子を頂いたことがきっかけでした。食味を重視した加工向け品種を模索していた時期でもあり試しに栽培したところ、白皮系としては貯蔵性が非常によく、食味においても糖度が高く良い甘さを持っておりました。また「つきみ」は安定した果形で揃いが良く、収量性が高いことも大変魅力的でした。冷凍加工後の色合い



▲写真2 カボチャ圃場

がとても優れており(マンゴーのような色合い)、出荷した取引先からも大変好評を頂いたことから、本格的に導入することになりました。

このような経緯で正式販売前から複数年にわたり栽培し、今に至ります。昨年からは黒皮系早生品種の「橙栗」を、本年からは販売予告品種である「栗天下(SQ-018)」の栽培も試みています。

3.食育事業への協力

毎年、地元の小学校においてカボチャを使った食育活動(種まきから収穫、販売までを体験)を実施しております。昨年は雪印種苗の広瀬氏を招き、カボチャの由来、種類、食べごろなどを学ぶための特別授業も実施しました(写真3)。

毎年10月には、女満別 道の駅にて開催される「輝農祭」にて子供たちが栽培したカボチャを自らPRする販売会が行われますので、是非お越しいただければと思います。



▲写真3 地元小学校での食育